

## 第1章 区の概要

### 1 地勢

東区は信濃川河口の東側に位置し、区の北側は日本海に面しています。区の西部に信濃川と栗ノ木川、東部に阿賀野川が流れ、中央部には信濃川と阿賀野川の流路として水運を担った通船川が、区の東西を横断する形で流れています。

豊かな水辺環境に恵まれている一方、信濃川と阿賀野川により形成された沖積平野であり、区内には海拔ゼロメートル地帯が点在しています。

また、東区には新潟空港と新潟西港があり、空と海の玄関口という側面ももち合わせています。

区の面積は38.77 km<sup>2</sup>で、8区のなかで中央区(37.42 km<sup>2</sup>)に次いで2番目に小さく、新潟市の全面積(726.10 km<sup>2</sup>)の約5%を占めています。



### 2 歴史

#### 《工業地帯の伸展》

明治時代の後期に日本石油株式会社(当時)が山の下に新潟鉄工所を造り、石油採掘用の機械や車両の製造などを開始しました。以降、大正期にかけて中小の工場が建設され、多数の労働者を抱える工業のまちとして発展しました。昭和2年に新潟市の都市計画で工場地帯に指定されたことにより、工場建設が加速していきました。

#### 《住宅地の造成》

昭和4年から新潟市で最初の土地区画整理事業が実施されたことにより、山の下地区の西側で宅地開発が進んでいきました。昭和20年代、40年代にはさらに東側へと伸展し、かつての砂丘地は住宅地へと姿を変えていきました。

また、石山地区では、昭和37年からの石山団地造成事業、昭和47年からの土地区画整理事業によって宅地開発が進み、かつて農村地帯であった風景は一変しました。

#### 《新潟空港の歴史》

新潟市の最初の空港は、信濃川の中洲だった万代島が使われていました。次いで、焼島潟の埋め立て地が使われましたが、市では本格的な飛行場が必要と考え、昭和5年に現在の新潟空港の場所に市営飛行場を造りました。

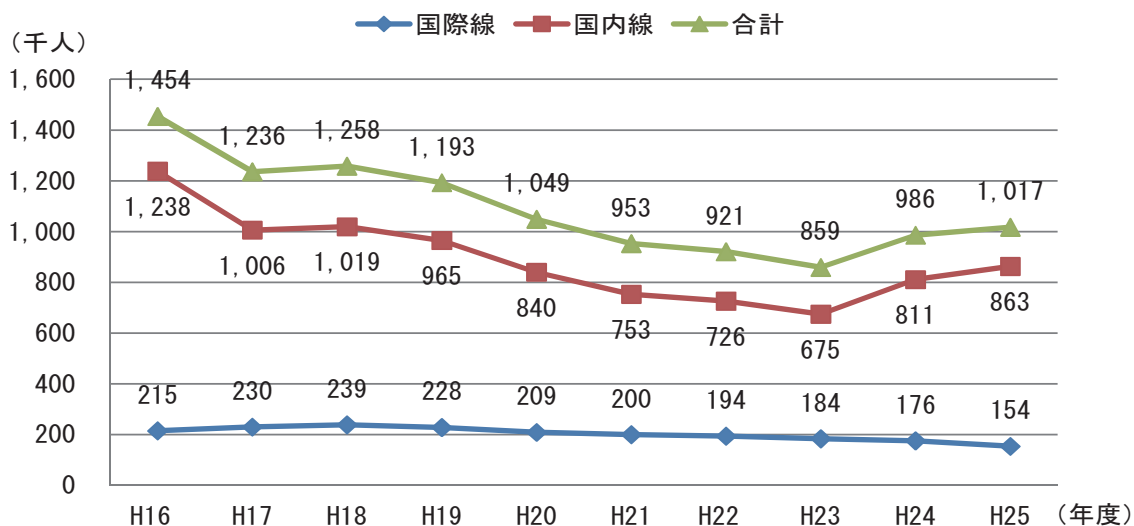
市営とはいうものの、地籍は北蒲原郡松ヶ崎浜村にあり、新潟市になるのは、松ヶ崎浜村と合併した昭和29年のことです。

飛行場は昭和14年に国へ移管され、戦後は米軍に一時占領されていましたが、昭和

33年に日本に返還されました。

現在は国際空港として、平成26年3月時点で国際線7路線、国内線8路線を擁し、年間約100万人の利用客でにぎわっています。

新潟空港乗降客数の推移



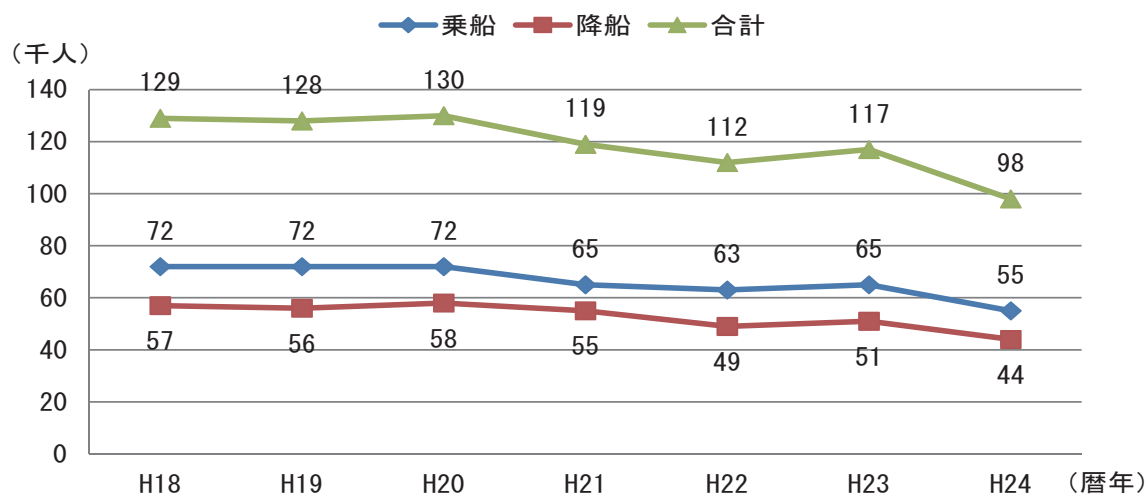
資料:国土交通省「空港管理状況調書」

### 《新潟西港の歴史》

大正14年、新潟港の信濃川河口の右岸では、新潟臨港株式会社（現(株)リンコーコーポレーション）が難工事の末、臨港埠頭と臨港鉄道を完成させました。全国的にもまれな民間企業によって造られたこの埠頭は、新潟港の一部として、新潟の経済を支える重要な役割を担ってきました。

一方、県営の山の下埠頭は、新日本海フェリーが定期航路として、新潟と敦賀、秋田、苫小牧、小樽を結んでいます。また、貨物船やクルーズ客船も入港しています。

山の下埠頭フェリーターミナル乗降客数の推移



資料:新潟市統計書

### 3 自然

東区は区内を流れる通船川をはじめとして、水辺の魅力にあふれた潤いのあるまちです。なかでもじゅんさい池公園は、全国的にも珍しい2つの砂丘湖があり、周囲はアカマツの自然林で覆われています。「じゅんさい池」とは、湖中に水生している植物「ジュンサイ」から名付けられました。人気の散策コースとして、一年を通じてたくさんの区民が訪れています。特に春は、かがり火によってライトアップされた満開のしだれ桜が、訪れる人の目を楽しませてくれます。

また、大形地区にはミズアオイが自生し、地元の方を中心に保全活動が進められています。



じゅんさい池公園



じゅんさい池公園 夜桜



ミズアオイ

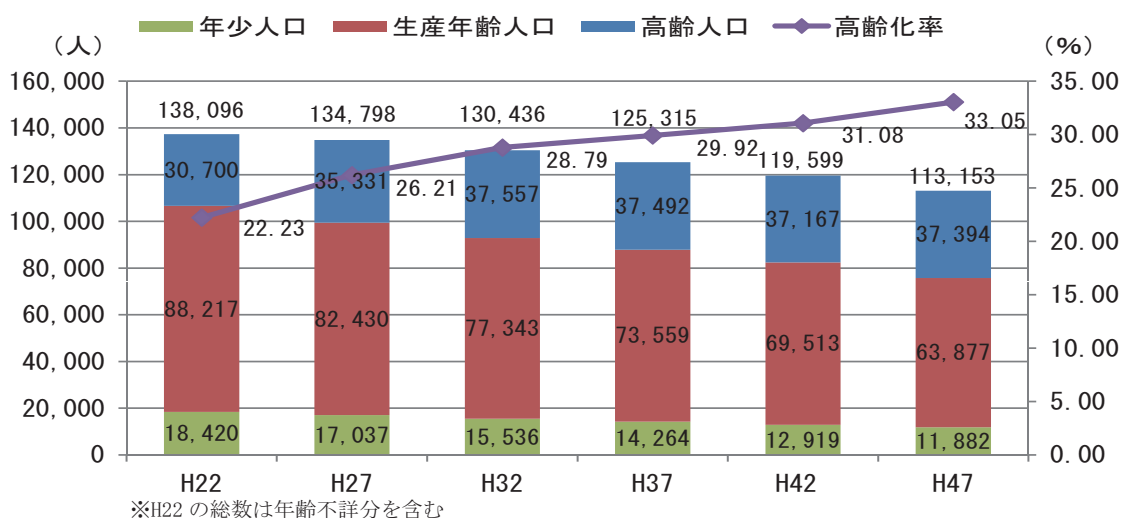
## 4 人口

平成22年の国勢調査によると、東区の人口は138,096人、世帯数は54,447世帯で、8区のなかで中央区と西区に次いで3番目に多く、人口及び世帯数は、それぞれ新潟市全体の約17%を占めています。

また、人口密度は3,562人/㎢で、中央区に次いで2番目に高く、新潟市全体の1,118人/㎢を大きく上回っています。

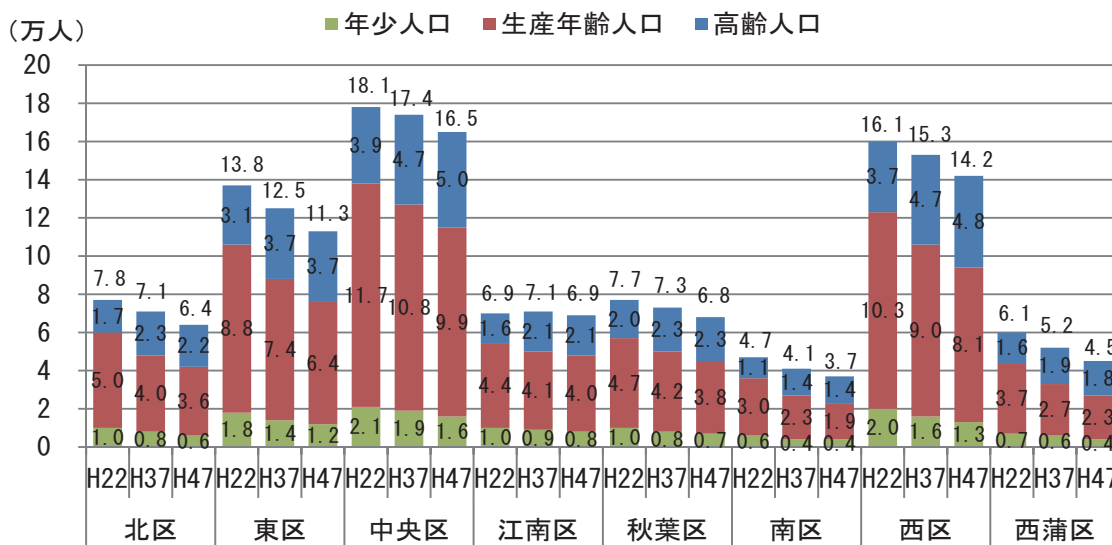
しかし、将来推計人口によると、今後はさらに人口が減少し、より一層高齢化が進むことが懸念されています。

東区将来推計人口(階層別)



資料：国勢調査 (H22)

将来推計人口(区別)

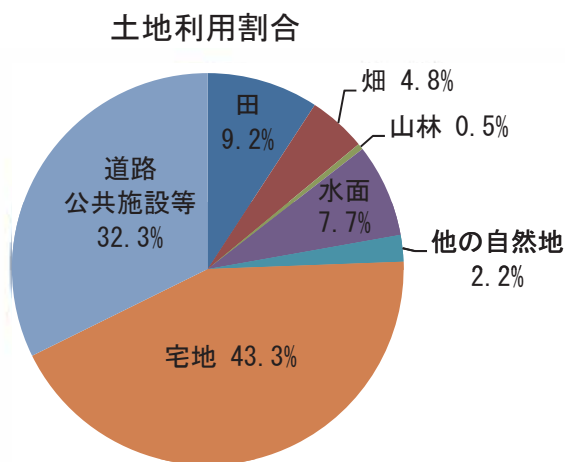


資料：国勢調査 (H22)

## 5 土地利用

東区は、市の中心部に隣接する地理的条件と高い人口密度を反映して、区域の約4割を宅地が占めています。また、社会基盤が充実しており、道路・公共施設等の区域に占める割合が、宅地に次いで高くなっています。

一方、田畑や山林などが区域の2割強を占めており、憩いの空間が残されています。



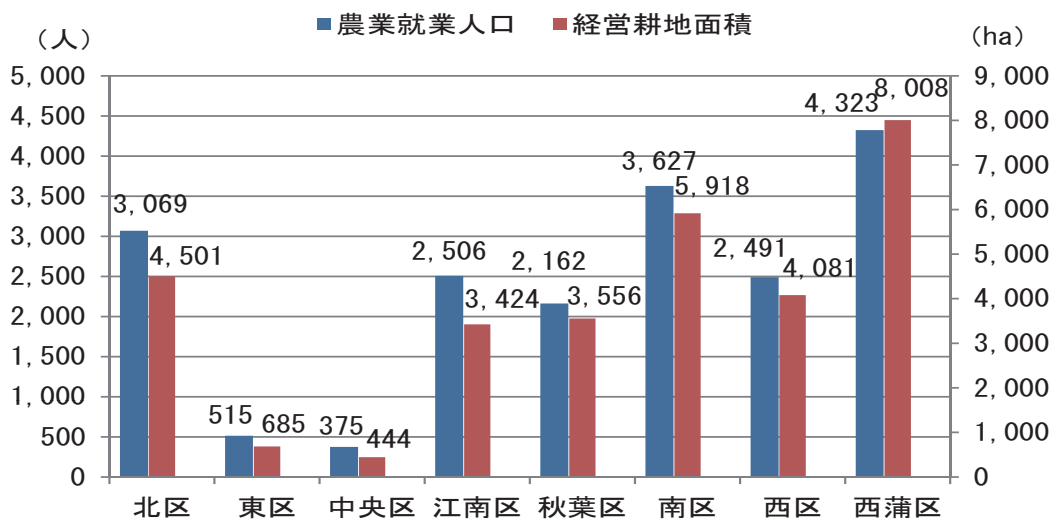
資料：新潟市都市計画基礎調査（H21）

## 6 産業

### 《農業》

東区では都市近郊農業が行われ、その農地は大形地区と石山地区を中心に展開されています。農業就業人口及び経営耕地面積は、それぞれ8区のなかで中央区に次いで2番目に低い数字となっています。

農業就業人口と経営耕地面積(区別)



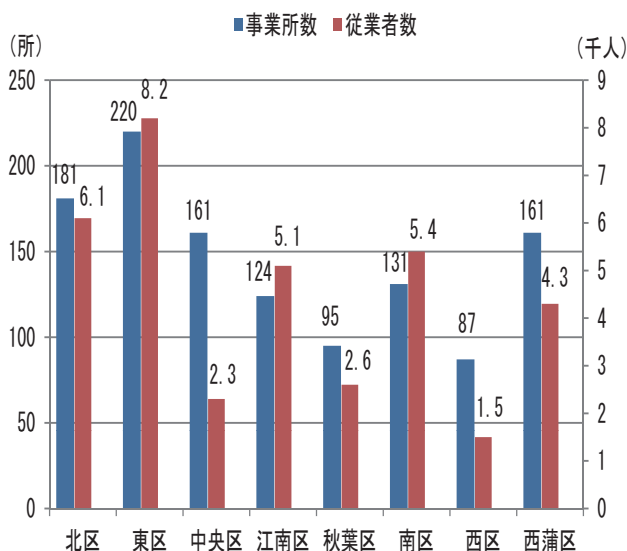
資料：世界農林業センサス（H22）

## 《工業》

東区の工業は、事業所数、従業者数、製造品出荷額全てが市内第1位となっています。なかでも製造品出荷額は、新潟市全体の約3割を占めています。

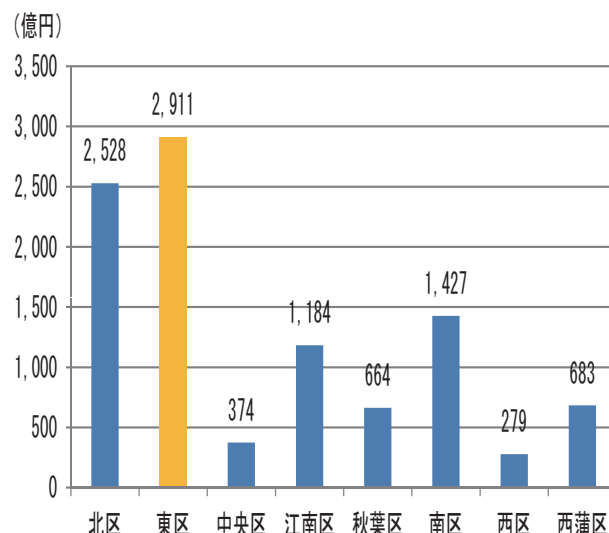
製造品出荷額においては、パルプ・紙・紙加工品製造業、化学工業、食料品製造業の占める割合が高くなっています。

### 製造業の事業所数及び従業者数(区別)



資料：経済センサス-活動調査 (H24)

### 製造品出荷額等(区別)



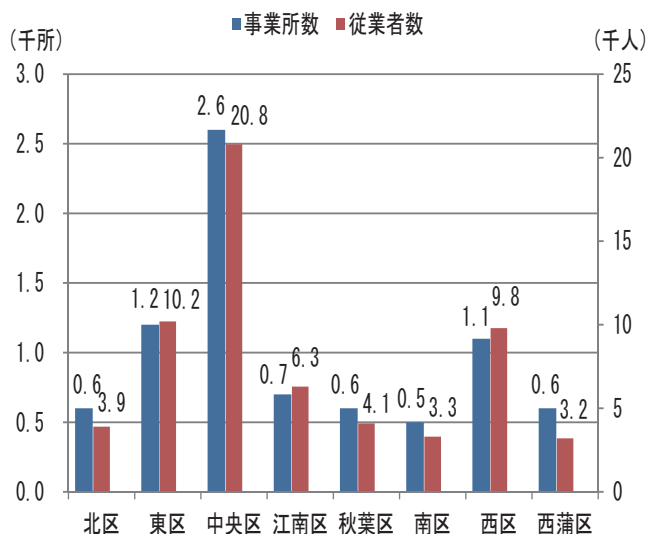
資料：経済センサス-活動調査 (H24)

## 《商業》

東区の商業は、事業所数及び従業者数がそれぞれ市内第2位、年間商品販売額が市内第3位となっています。

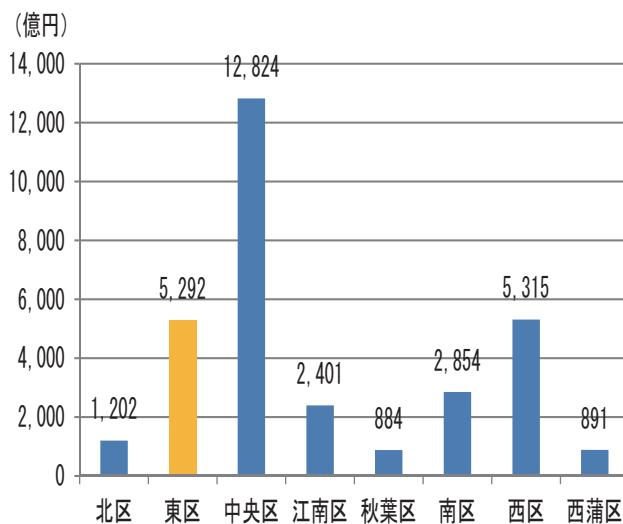
年間商品販売額においては、建築材料、鉱物・金属材料等卸売業と飲食料品卸売業の占める割合が高くなっています。

### 卸売業・小売業の事業所数及び従業者数(区別)



資料：経済センサス-活動調査 (H24)

### 年間商品販売額(区別)



資料：経済センサス-活動調査 (H24)

## 7 交通

東区は、東西方向に走る国道7号、国道113号、県道新潟新発田村上線と、南北方向に走る県道新潟港横越線（通称：赤道）などの主要幹線道路が結ばれることにより、優れた交通基盤を形成しています。

鉄道は、区の南部にJR信越本線とJR白新線が通っており、越後石山駅、東新潟駅、大形駅の3駅が設置されています。

バスは、市の中心部と結ばれた路線が、主に東西方向に運行されています。

### 《東区の主要幹線道路》

